



～～東新潟中学校ホームページも、ぜひご覧ください！～～

URL : <http://www.higashiniigata-jh.city-niigata.ed.jp>

8月7日（金）、夏休み直前の全校集会の津野校長先生の講話です。

かけがえのないもの

校長 津野 庄一郎

命という字は、「口」と「命令」の「令」の字が合わさった文字です。「口」は神様の言葉を受ける器の形、令はひざまづいて、物をいただいている、謙虚に受け止めている様子を表しています。命は神様、そして自分の親からいただいているもの、自分も、自分の回りの友達もみんな同じ、いただいている命なのです。

では、命は身体のどこにあるのでしょうか？命は心臓でしょうか？ 105歳で亡くなるまで現役医師として活躍した日野原重明さんは、命について次のように語っています。

「酸素や風が皆さんの目には見えないように、命もまた目に見えないものです。フランスの作家サン・テグジュペリの書いた『星の王子さま』の中で、星から来た王子さまに、仲良しのキツネはこういいました。『心でみなくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ、かんじんなことは、目に見えないんだよ』命は目に見えないもの。だからこそ大切なものなのです。もちろん心臓も大事なものですが、命そのものではありません。酸素と栄養をもつ血液を、脳や手や足へ送り出すポンプの働きをするものです。命とは、皆さんがもっている時間、皆さんが使える時間のことです。そして、皆さんが大きくなったら、その時間をどうか自分以外の誰かのためにも、君たちの命を使ってください。」と。

ところで皆さんの命は、親からいただいたものですが、その親を元気づけるすごい力を発揮する人が家族の中にはいます。さあ、誰だと思いませんか。それは、実は皆さん自身なのです。

こんな話があります。今からは少し昔ですが、本当にあったお話です。

「事故でお父さんが急になくなった家がありました。お母さんと男の兄弟が残されました。次第に生活がとても苦しくなりました。お母さんは毎日朝早くから夜遅くまで二人の子どものために、必死に働きました。しかし、生活はよくなりませんでした。もっと苦しくなっていました。疲れ果ててしまったお母さんは、あんまり苦しくて、ある夜、死んでしまおうと決めてしまいました。

その日の朝早く、お母さんは鍋に豆を入れて水に浸しました。そして豆の煮方を書いた手紙を置いて、まだ暗い中、仕事に出て行きました。やがて、夜遅く仕事から帰って来ました。もう子ども達は寝ていました。お母さんは子ども達の寝顔をじっと見つめます。その手には死ぬための薬の瓶がありました。お母さんの目から涙がぼとぼと落ちました。ふと、兄の枕元の手紙があることに気が付きました。『お母さんへ』と書いてあります。お母さんは手紙を読みました。

『お母さん、僕は一生懸命に豆を煮ました。でも弟はしょっぱいと言って、ご飯に水をかけて食べて寝てしまいました。本当にごめんなさい。お母さん、お願いします。僕の煮た豆を一粒だけ

食べてみてください。そして、明日の朝、もう一度、僕に豆の煮方を教えてください。いくら早くてもいいから起こしてください。お母さん、お仕事ご苦労様でした。先に寝ますね!』

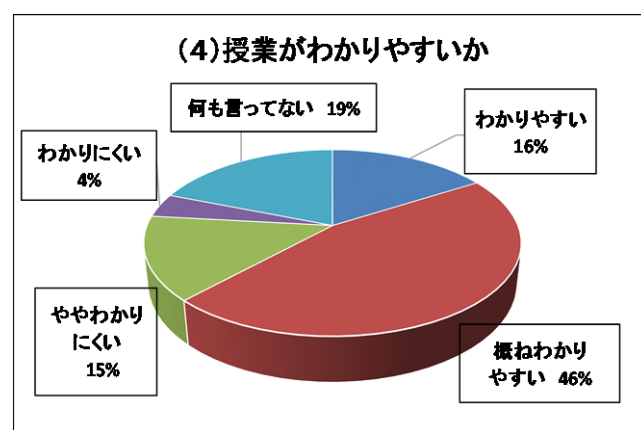
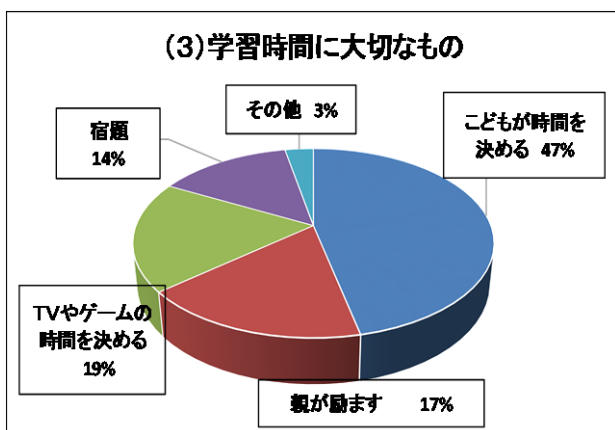
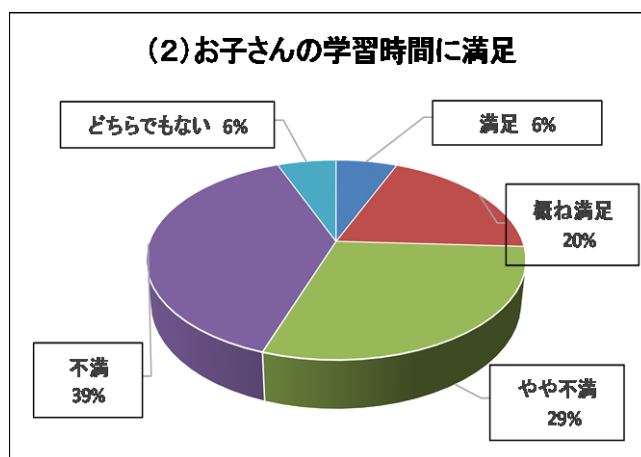
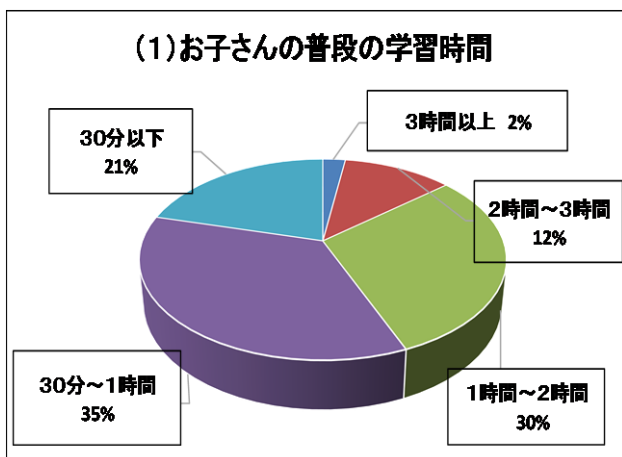
お母さんは声を出さずに泣きました。そして、死ぬことをやめようと決めたのでした。朝、お母さんは上の子と一緒においしい煮豆をつくりました。弟はおいしい、おいしいと言って食べました。煮豆だけのおかずでも、それはそれは温かく明るい食事でした。お母さんは、子どもの手紙で豆を一粒包んで、肌身離さず持ち歩きました。それがあれば、どんなに苦しくても元気になるからです。子どもの頑張る姿ほど、親を元気にするものはありません。」

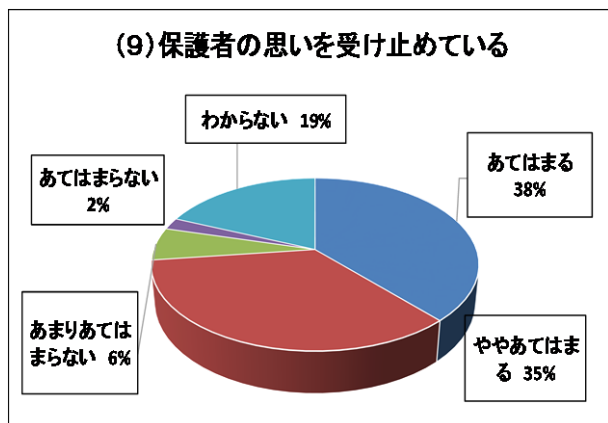
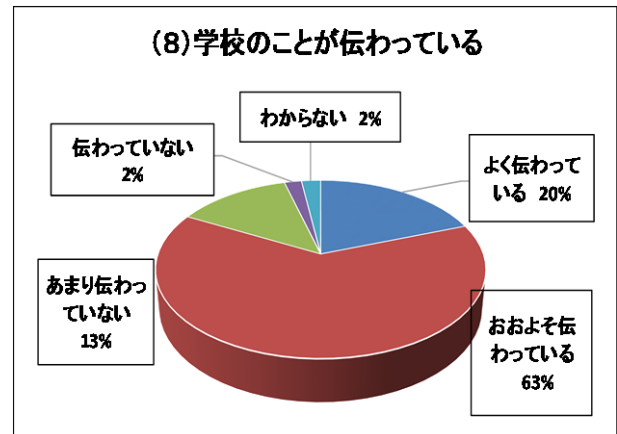
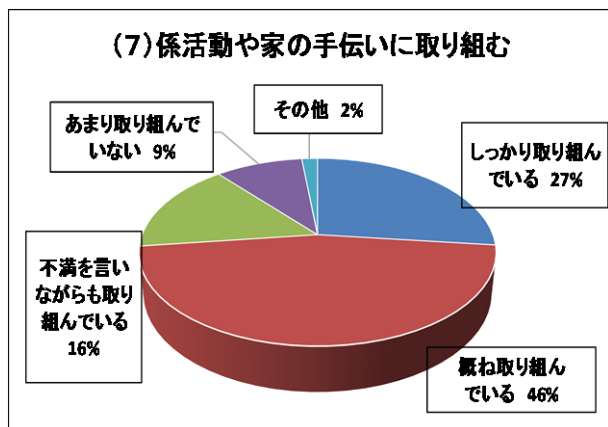
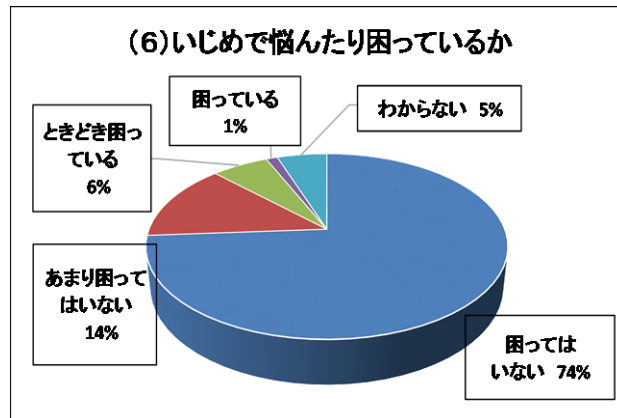
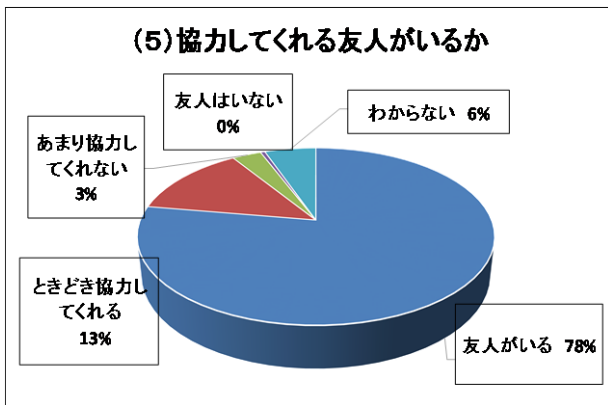
最近のドラマなどでは、平気で人を殺したり、傷つけたり、馬鹿にしたりと、人の命や人権を軽んずるものが目につきます。また、新型コロナが拡大し、健康や人間関係へ不安からか、許されない誹謗や中傷もあります。私はとても残念な気持ちになります。命は親からいただいたもの、そして目に見えないものです。しかし、だからこそ、想像力を発揮し、お互いの個性を認め、尊重して力を合わせて、今という時間を大事に一生懸命に頑張ること、それが命を大事にすることではないでしょうか。

明日から16日間の待望の夏休みです。命を大切に有意義な時間を過ごしてください。

<前期学校評価：保護者アンケート結果> 7月28日実施 -----

保護者アンケートにご協力をいただきありがとうございました。皆さまからいただいたアンケート結果およびご意見を全職員で受け止め、今後の教育活動に生かすとともに、全力で生徒たちの成長を支えて参ります。





「学校が行うべきこと」、「家庭・保護者が行うべきこと」の双方が努力し協力し合うことが、子どもの成長には欠かせません。
今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

創立70周年記念事業 「温故知新」 ～更なる発展と飛躍に向けて～

= 「記念テント」と「記念ハンドタオル」 =

創立70周年記念のテントが二張出来上がり、9月7日の東風祭でお披露目されました。
真っ白な新品のテントが、青い空に映えていました。



(来賓席)



(PTA 受付)



創立70周年記念の記念品であるハンドタオルのデザインも決まりました。
かわいらしくて、ほっこりとするキャラクターです。

